

自分で決める学習活動

全学年 音楽科「楽器あそび」の実践を通して

木村 敦子

1 音楽科における自己決定

音楽科における自己決定については、平成8年度研究紀要において、児童の実態の捉えと活動の支援について述べた。ここでの音楽活動における児童の自己決定は、次の2点が考えられた。

- ① どのような手段で表現するか
- ② どのように表現するか

①については、日常的な動きから児童が好むと思われる楽器を選択肢として提示するようにした。選択肢は、それぞれの違いがはっきりしていること（音色の違い、音の出し方の違い）をポイントとした。このことによって、自己決定の基本となる「好み」が児童自身にとって明らかなものとなっていった。児童が自分で選択をする場合、自己選択の基準となるものをそれぞれ持っている。その基準とは、どのようなイメージで音を捉えているかに因っている。昨年度の研究では、そのイメージが明確となるように「違い」を重視した。本年度はこの「違い」をより少なくしていった、イメージを明確にしていくことを試みることにした。

②については、児童が音楽をどのように捉えているかということと、音楽の関係づけをどのようにしているかということに因っている。この点については、個の活動から集団活動へと児童の実態に応じて移行していくことが必要とされている。

2 実践事例－「楽器あそび」(Fun For Four Drumus)

(1) 題材について

児童の意欲は、自分の思いを自分なりに表現する活動、表現したことの達成感をもつことができる活動を通して育まれていくものであると思われる。音楽に合わせて動いたり、歌ったり、楽器を演奏することは、児童が好んで取り組む活動である。特に、楽器を演奏することは、魅力的な活動の1つである。児童が音楽を感じたり、自分の出した音を意識して意欲的に音楽表現をしていくためには、一人ひとりの児童が心地よく活動できること、それぞれがもっとも表現しやすい方法で活動できることが必要である。そこで、音楽活動に求められる条件としては、一人ひとりの興味・関心に応じることができるものであること（自分の好きな楽器が選択できるようになっていること）、児童の表現に合わせて音楽を変化させていくことが可能なものであること（児童が自分の音楽を決めていくことができるもの）、歌ったり動いたりリズムを打ったりする活動の必然性があるものであること、児童相互に表現し合う場が設定されていることなどが考えられる。

本題材では、教材曲「みんないっしょに」(C. ロビンス, P. ノードフ作), 「Fun for Four Drums」(C. ロビンス, P. ノードフ作)を主教材として選択し、さまざまな音色の楽器を演奏する活動を行っていくものである。教材曲「みんないっしょに」は、たいこ、シンバル、リードホーン、トーンチャイム、タンブリンが歌の中に順番に出てくる曲である。歌で楽器を演奏する順番がわかることから、分担奏や合奏の構成が児童にわかりやすくなっている。また、児童が自分の好きな感触や音を選択できたり、一人ひとりの演奏する速さやタイミングに合わせて音楽が展開できるようになっている。また、教材「Fun for Four Drums」は4種類の類似した音色、類似した奏法の楽器をリズムに合わせて演奏していくものである。音色の違いや、友だちの音を聞き合ったりすることが、音楽ゲームになっている活動である。

本学級では、1年生から6年生までの18名を学習集団として、音楽の授業を行っている。音楽活動への児童の関心は高く、特に楽器を使用した活動を好んでいる。全学年合同の学習は、音楽以外でも行われているため、児童相互が関心をもって活動している。

指導にあたっては、児童の自己選択の実態に応じて、複数の中から選ぶ～2者の中から選ぶといったように提示をしていく。さらに選択した楽器で、一人ひとりが自分なりの表現をしていけるよう、伴奏の工夫、教材提示の工夫をしていく。また、児童相互が聞き合ったり、模倣し合ったりできる場も設定していくものである。

(2) 指導目標

- ① 自分の好きな楽器を選ぶことができるようにする。
- ② 音楽の流れにのって楽器で表現できるようにする。
- ③ 友だちと一緒に表現できるようにする。

(3) 指導計画と内容 (16時間)

段階	時	ねらいと主な活動	教材	目標		
第一 次	1	ねらい いろいろな楽器に親しむ ○歌に合わせて、友だちと交代しながら、たいこを演奏する。	○ ○ちゃん で て お い で み ん な い っ し よ に Fun for Four Drums	② ③		
	2	○歌に合わせて、友だちと交代しながら、たいこ、シンバル、リードホーンを演奏する。 ○自分の好きな楽器を選ぶ。		① ② ③		
	3	○歌に合わせて、友だちと交代しながら、たいこ、シンバル、リードホーン、タンブリン、トーンチャイムを演奏する。 ○自分の好きな楽器を選ぶ。		① ② ③		
第二 次	1	ねらい 自分の好きな楽器を選んで表現する ○歌と合奏を聞く。 ○たいこ、シンバル、リードホーン、トーンチャイム、タンブリンから好きな楽器を選んで演奏する。		○ ○ちゃん で て お い で み ん な い っ し よ に Fun for Four Drums	① ② ③	
	2 3 4	○たいこ、シンバル、リードホーン、トーンチャイム、タンブリンから好きな楽器を選んで演奏する。 ○友だちと一緒に順番に演奏する。			① ② ③	
第三 次	1	ねらい 友だちの音を聞きながら表現する ○たいこ、ハンドドラム、ボンゴ、フロアータムから好きな楽器を選んで演奏する。 ○友だちと交代しながら演奏する。			○ ○ちゃん で て お い で み ん な い っ し よ に Fun for Four Drums	① ② ③
	2	○指導者の表現を視聴する。 ○たいこ、トライアングル、ボンゴ、コンガから好きな楽器を選んで演奏する。				① ②
	3 4 5 6	○たいこ、ハンドドラム、ボンゴ、フロアータムから好きな楽器を選んで演奏する。 ○友だちの音を聞きながら表現する。				① ② ③

		○友だちと順番に演奏したり、一緒に演奏する。 ○自分が演奏する箇所では、好きな打ち方で演奏するようにする。 ○音の強弱やリズムを感じて表現する。 ○指導者の指揮で音楽ゲームを進行する。	
7 8 9		○ 児童同士で指揮しながら、音楽ゲームを進行する。	① ② ③

(4) 指導事例 (第三次 第3時)

本時の目標

自分の好きな楽器を選び、友だちと一緒に楽器を演奏することができる。

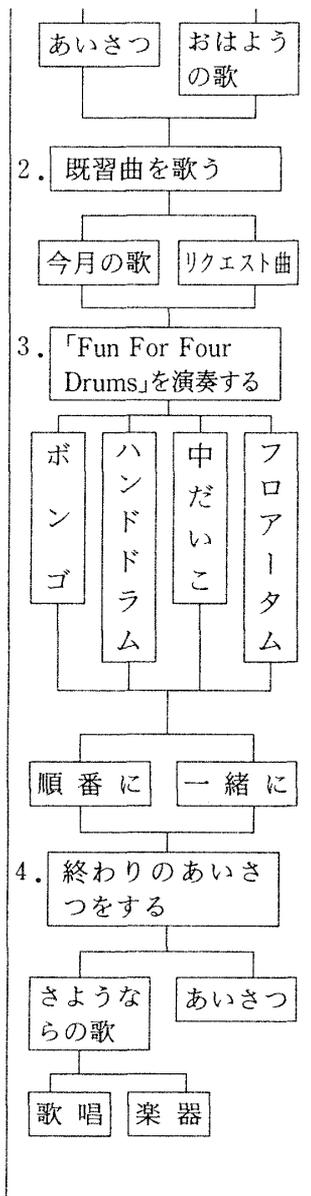
目標行動

児童	目標行動	支援
②⑤⑨	自分の前に提示された楽器の中から1つを選んで演奏する。 音楽の拍の流れにのったリズムがうてる。 指導者の言葉かけで分担奏ができる。	これまでの活動から好んでいる楽器を複数提示する。 分担して演奏する部分については側で指導者がことばかけをする。
①⑧⑱	複数の楽器の中から自分の好きな楽器のところに行く。 音楽の拍の流れにのって友だちと一緒に分担奏ができる。	複数の楽器を提示し好きなところに行くよう言葉かけをする。 分担奏の順番が分かるように示していく。
③④⑦⑬⑮	複数の楽器の中から自分の好きな楽器を示す。 友だちの音を聴きながら、順番が分かって分担奏ができる。	順番に楽器を配置する。
⑥⑩⑪⑫⑭ ⑱	複数の楽器の中から自分の好きな楽器を示す。 分担奏の順番が分かり、自分で工夫して表現できる。	複数の楽器を提示し、どの楽器がしたいか問いかける。 一人で演奏する部分は、児童の表現に合わせた伴奏をする。

仮設	異なった音色の楽器での分担奏を取り入れた活動を設定するならば、自分の好きな楽器を選び、表現するであろう。
----	--

準備 ボンゴ、ハンドドラム、中だいこ、フロアタム、トーンチャイム、リゾネーターベル
学習の展開

学習過程	予想される活動	指導・支援活動	
		全体	個別
1. 始まりのあいさつをする └──┬──┘ └──┬──┘	○児⑤⑨は、指導者の側に来るであろう。	1.・学習の始まりとして毎時間位置づける。 ◎一人ひとりの児童が自分	1.・本日の当番、児が前へ出て号令をかけるように言葉かけをする。



- 児③⑥⑦⑧⑩⑬⑭⑰
- ⑱は、歌いたい歌をリクエストしてくるであろう。
- 前に出て楽器を自分で選ぶことに援助が必要であると思われる児童(②⑨)
- 指揮をするであろう(⑩⑬⑭⑱)
- 友だちの楽器の順番を示すであろう。(⑥⑩⑭⑰⑱)
- 順番に演奏する際に援助が必要であると思われる児童(②⑤⑨)
- 友だちの音を聞いて演奏するであろう(①③④⑥⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱)
- 児⑤⑨は指導者に働きかけてくるであろう。

- の好きな表現であいさつができるように伴奏を合わせる。
- 2. ・児童のリクエストは、できるだけとりあげて歌うようにする。
- 3. ◎児童一人ひとりが好きな楽器を選べるよう、複数の楽器を提示する。
- ◎音楽の速さや拍の流れは、児童の活動の速さによって決定する。
- ・演奏の順番が児童に分かるように、指導者が示範する。
- ・曲に出てくる順に楽器を配置する。
- 4. ○始まりと同様に毎時間位置づける。
- 「さようならの歌」は、2曲歌うようにする。2曲ともリゾネーターベル、チャイムバーを使用する。歌で学年を呼ぶようにする。

- 2. ・児①②⑤⑨が活動に入りやすいよう、指導者が側にいて言葉かけをしたり、一緒に動く。
- 3. ・児②⑨が前の方に出来にくい場合には、指導者が一緒に児童の好きな楽器の置いてあるところまで出るようにする。
- ◎児⑤⑨が自分の好きな楽器を選ぶことができるよう、4つの楽器を選択肢として提示する。
- 児②は2つの楽器を選択肢として提示する。
- ・児⑩⑬⑭⑱が指揮が得意やすいよう、指揮棒を準備する。

譜例 「Fun For Four Drums」

(5) 児童の活動 (児⑨の事例 第三次)

(5) 児童の活動（児⑨の事例 第三次）

時	児童の活動		支援
1	ボンゴを手の甲や手の平で打つ。 手でハンドドラムを打ったり、ばちをハンドドラムの上に落として音を出す。	← ←	これまでの活動で好んでいた感触の楽器として、ボンゴとハンドドラムを提示する。 ばちを手渡す。
2	楽器が出てくるとボンゴを打ってみる。 ばちでボンゴを打つ。 楽器を打つ順番にボンゴを打つ。	→ ←	ボンゴとハンドドラムを提示する。
3	ボンゴを打った後に不機嫌になり、泣く。 問いかけに対して「はあい。」と答える。	→ ←	「他のものをしたかったの？」と問いかける。
4	フロアタムを選んで打つ。	→	4つの楽器を提示する。
5	他の児童の打つ順のところでも打ち続ける	←	
6	フロアタムを選んで打つ。	→ ←	児⑨の打つ順番がはっきり分かるように示す。 4つの楽器を選択肢として提示する。
7	自分の順番の箇所では伴奏の速さに合わせて		
8	打つ。	→	曲の終わりは児⑨が終止感をもつことができるところまで合わせていくようにする。
9	フロアタムを選んで打つ。 友だちと一緒に曲を終止する。	←	楽器が出てくる順番を示す。

3 考察

(1) 児童の自己決定について

本題材で、児童が自分どのような手段で表現したいかという選択を行うには、次のような過程があると考えられる。

ア 日常的に好んでいる物を指導者が2つ提示し、どちらかを音を出して選ぶ。

イ 日常的に好んでいる物を指導者が2つ提示し、友だちが演奏するのを見て、自分はどちらにするか選ぶ。

ウ 前回選んだものを選ぶ。

エ 提示された複数の楽器を、全部音を出して選ぶ。

オ 友だちが演奏するのを見て、提示された複数の楽器の中から選ぶ。

児⑨の事例では、第三次第2時までにはアまたはイのように選択していた。第3時では、オのように楽器を選ぶようになってきた。これは、本児が具体的に自分の行動を通して行っていた選択から、友だちが演奏するのを見て自分の行動をイメージして選択していったことになる。このように自己決定を児童の選択行動からみていく際、どのように選択しているのか、その選択の仕方を見ていき、適切な支援をしていく必要がある。

(2) 自己決定する場の設定について

児童が自分で選択していくためには、選択をする以前に選択肢のイメージが明確になっている必

要がある。選択肢のイメージ化を図る活動として、本題材では、教材曲「○○ちゃんてておいで」を使用して、これから選択していく楽器について児童が個別に演奏していくことを行った。この活動を、4～5人の集団で音楽を表現する前に取り入れていくようにした。このことによって、児童は1つ1つの楽器はどのようにしたら音がでるのか、どのような音がするのか、どのような感触がするのかを自分のイメージとして持つことになった。さらに、本題材では、選択肢の要素が類似しているものを扱うようにした。音の出し方が類似している、音の質が類似している、感触が類似しているといったことである。このような選択肢の中から選ぶということは、自分の好んでいるもののイメージがより明確であることが必要である。このことについては、実際に自分が演奏するだけでなく、指導者や友だちが演奏するのを見たり聞いたりする活動によっても、自分のイメージを明らかにしていくことができたものであると思われる。

(3) 今後の課題

本事例をもとに、児童が自分で選択していく過程と自分で選択する際の選択肢のイメージ化を図ることについて考察を行った。「好き」だからという積極的なプラスの選択だけでなく、「他よりもよいから」「他が嫌いだから」「友だちが選んだから」「選択肢以外のものがよい」など、1つ1つの選択には意味がある。ここで課題となる点は、児童がなぜそれを選んだのか、という選択行動の意味づけをすることであると思われる。

(参考文献)

平成8年度 広島大学附属東雲小学校研究紀要, 1997
P. Nordoff, C. Robbins, "Fun For Four Drums"